



# まなこ

## 家事ハラって？



- インタビュー 社会は、お金を稼ぐことと、命を支えることの両輪で回っています …… P.2
- 座談会 本音で語る家事労働～女性編～ …… P.4
- 座談会 本音で語る家事労働～男性編～ …… P.4

特集

# 家事ハラって？

家事や育児などの家事労働は、家庭内の問題として「見えないこと」にされがちです。家事労働はなぜ女性ばかりが担っているのか、過小評価されることで、どんな問題が生じているのか。改めて考えてみました。

## 社会は、お金を稼ぐことと、命を支えることの両輪で回っています

長年、労働問題の取材に携わり、「家事労働ハラズメント」という言葉を生んだ、竹信三恵子さんに伺いました。

### 家事労働ハラズメントとは

家事労働ハラズメント（以下、家事ハラ）とは、分かりやすく言うと、「家事労働または家事労働的な仕事に対する嫌がらせ的扱い」ということでしょうか。つまりは、家事労働や、例えば育児・介護のような家事労働から派生していることを安く見積もって低賃金で扱うといった、家事蔑視から始まる不利な扱いや公的な場所からの排除を示しています。

この言葉を拙著で紹介した後に、ある大手住宅メーカーが同社の広告で、夫が家事をすると、夫の家事に対して妻が苦情を言ったり、けなしたりするという、家事を理由にした妻から夫へのハラズメントといった解釈で家事ハラという言葉を使ったのです。女性が蔑視されて困っているということをおうとしたのに、男性擁護の視点とい

### 家事が持つ意味

うのは、全く逆の意味だったので、同社にその旨を伝えたところ、「先に作られた言葉を確認もせず、勝手な解釈をあててしまった」と、広告を取り下げてくれました。そういう経緯からも、まだ、家事ハラの意味を取り違えている人は結構いるのではないのでしょうか。

家事労働は、子どもを育てて社会へ送り出し、弱ったお年寄りを日々支え、働き盛りの人々が英気を養って再び職場へ出ていくための基礎をつくる、ということでも重要な仕事だと思えます。ある意味「命の再生産」と言った人もいますが、癒しの営みなんですよ。例えば、食事のために食材を買ってきて、それをすぐ食べられるわけはありません。煮たり焼いたり、人の手を使って加工しなくちゃいけない。当然そこに何かの営みが発生します。

そういう意味で家事というのは、人間が自分の身体を作り直し、支えるために、いろいろな資源を有用にするための労働なんです。だから、それなしでは実は何も回らないということです。人間の社会は、お金を稼ぐということと、命を支えるということの両輪で回っているにもかかわらず、後者の輪がものすごく小さくなっていて、今の社会が傾いているというイメージです。

このように重要な労働であるにもかかわらず、家事の社会的評価が低くなったのは、性的分業で女性だけに担わせたということにあると思います。これが、お金を稼ぎ発言権のある人もやっていけばそんなことにならなかつた。女性が家に引込んで家事だけ担わされている、または外に働きに出ても、家事があなたの本分だと言われて十分に働けない。そうすると結果的に発言権のない人の労働になってしまいます。

### 竹信三恵子さん

ジャーナリスト、和光大学現代人間学部教授。朝日新聞経済部記者、編集委員兼論説委員などを経て、2011年4月より現職。2009年貧困ジャーナリズム大賞を受賞。

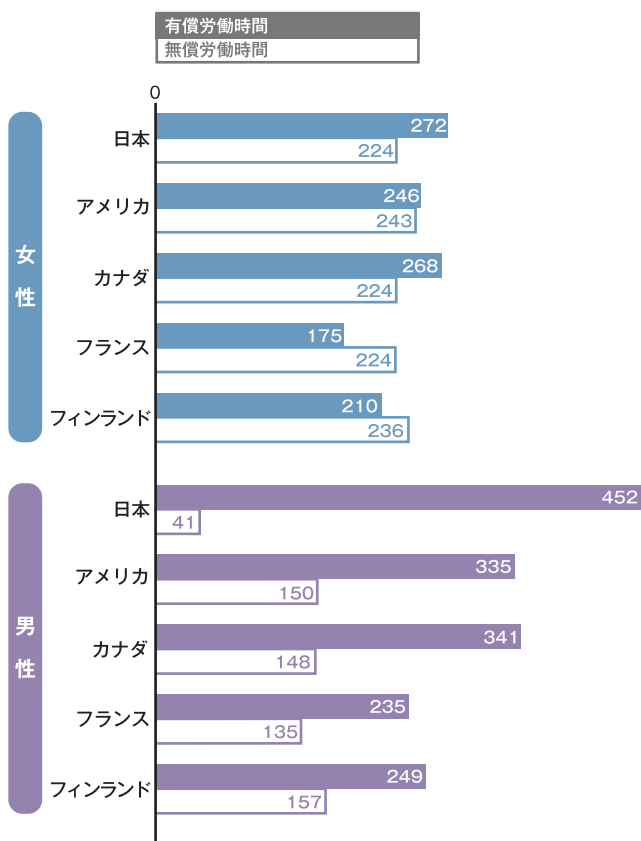
著書に「家事労働ハラズメント―生きつらさの根にあるもの」(岩波新書)、「正社員消滅」(朝日新書)などがある。



つまり、男女がお金を稼ぐ仕事と家事労働をバランス良くやるというように仕組みを変えていかないと、家事労働はいつまでたっても評価されないと思います。1995年に北京で開かれた国連の第4回世界女性会議の行動綱領に、次のようなことが謳われています。「労働には有償労働(ペイドワーク)と無償労働(アンペイドワーク)のふ



## ■ 1日当たりの有償・無償労働時間の国際比較 単位：分



(資料出所) 経済協力開発機構 (OECD)  
 「Balancing paid work, unpaid work and leisure」(2018年発表)  
 ※原則として、15～64歳の一日の平均値。有償労働時間には、学校での時間、就職活動の時間、通勤・通学時間などを含む。ただし、国によって調査方法や調査項目が異なる。

たつがある。どちらも重要な対等な労働なのに、女性だけが無償労働を担うことになっていく結果、女性は経済力を失い社会的発言力をそがれてしまう。その事態を防ぐため、無償労働と女性の貧困の関係を調べる統計の整備の必要がある」と。つまり、家事も労働だということですよ。

### 重化学工業の登場で

男性が働いて女性が家に居るという形態は、1970年代には先進国ではほぼそつでした。

産業構造的にいうと、重化学工業の登場が大きかったと言えます。それまで、第一次産業や軽工業の時代は、貴族やブルジョワ階級は別として、労働

者階級はみんな男女一緒に働いていました。繊維工業などは女性が主力でしたよね。ところが、重化学工業になると、力(筋肉)を使う仕事になり、身体づくりからして男性の方が使いやすいとなるわけです。しかも、重化学工業は賃金をたくさん出せる仕事で、戦後の経済復興とも相まって、企業が家族賃金を出せるようになり、それじゃあ女性に家に、という形になったのです。

80年代になるとグローバル化が進み、国際競争が激しくなっていく中で、(企業は)男性に家族賃金を出しにくくなります。その時どうしたかということ、オランダなんかは、家族賃金は男女二人で稼ぐという形に切り替え、そのために、労働時間の短縮と、同一労働同

一賃金を図りました。日本はといえば、女性は非正規(パートなど)という形で働くようになりましたが、男性賃金1に対して、女性は0.5しかもらえないのです。そうすると、やはり家族賃金は男性が働かないと立ち行かないというのが現実なのです。

### 男性が家事に参加するには

男性は稼ぐものだと言われてきました。しかも、男女の賃金格差があるので、家族賃金を稼ぐには長時間働かないといけないということになり、実際、家事をする時間的・精神的余裕がないのです。それから、そういう親たちを見て育ってきたことも大きい。だから、どこかで、その発想転換をしないといけないんですが、そういう意味で学校での家庭科教育は一定の役割を果たしたと思います。ただ、今の若い男子は、家事的なことが好きでちゃんとできる子と、全く興味がない子と二極化しているように思います。

やはり、必要なのは日々の労働時間の短縮だと思えますね。育児休暇でまとまった休みを取って、じゃあ、明日からやろうと思っても無理です。家事って毎日のことなので。それよりは、男女とも日々6時間くらいの労働で帰宅し、二人で一緒にやると。女性が男性に教えることができるし、ある程度マスタリーして一人でもできるようなになると、協力体制ができます。一日の労働

時間を短縮してくれないと、女性は全然助からないですから。男性って、結構子どもの存在で変わりますよ。子どもができたから禁煙した、とかいう人いるでしょ。だから、子どもの誕生というのはいいい転機です。責任感も生まれますよね。

### 家事ハラのない社会にするために

最初にも述べましたが、男女が、お金を稼ぐ労働と家事労働をバランスよくできるように、社会の枠組みを変えることが何よりも必要で、家事ハラの原因は社会制度にあるのが大きいとは思いますが、私たちにもできることはあります。それは、社会をよく見張り、おかしいと思ったら「おかしい」と声をあげること。大変だけど、主体は自分たちなんです。そのためにも、身近なところで勉強会をもち、みんなで悩みを話しながら、このことが分からないから本読んでみようかとか、議員さんに相談してみようかとか、そういう社会の場を作ることが大事です。そして、そこで「そうだよな」という人が何人もいれば、「よし、何かやってみよう」という気になりますよね。そうして、社会の仕組みを変え、自分の取り組み方も変える努力をして、等身大の自分を生きるということが大切ではないでしょうか。

参考文献 「取材 島崎理恵／取材・文 矢後麻衣」『家事労働ハラスメント——生かすための根にあるもの』岩波新書、2013年

座談会

本音で語る

# 家事労働

年代や家庭環境の異なる皆さんに男女別に集まっていたいただき、家事労働について本音で語っていただきました。

## ●女性編

— 家庭での家事や育児の分担について教えてください

**Fさん** 家のことはすべて私がやっています。夫は定年退職後、一日中家にいたところ、子どもたちが何も片付けない状態に驚き、親子げんかが勃発しました。囑託として仕事に復帰する話には家族で賛成しました。

**Mさん** 私が家事をほとんどやっています。夫の担当は、「ゴミ捨て、風呂掃除、子どもをお風呂に入れることと、休日に連れて出かけることくらいです。」

**Hさん** 上の子の妊娠を機に一度退職し、二人目の出産後フルタイムの仕事に復帰しましたが、心身ともに疲れ切ってしまったので、夫婦で話し合い、ともに時短で働くこととしました。家事育児もほぼ半々です。

**Fさん** 60代 専業主婦世帯 子ども3人(学生と社会人 同居)  
**Mさん** 30代 専業主婦世帯 子ども2人(幼児)  
**Hさん** 30代 共働き世帯 子ども2人(幼児)  
**Iさん** 30代 単身世帯  
**Cさん** 20代 共働き世帯

**Cさん** 明確な分担はありませんが、夫婦とも帰宅があまり遅くないので、私が夕食を作る間に夫が洗濯など他の家事をしています。

**Iさん** 実家では家事は嫌いでしたが、一人分なら5分で済み負担は感じません。将来パートナーと住むようになったら、家事は、できる人、気が付いた人がやるというのが理想です。

— 家事育児について困っていること、不満や不安はありますか？

**Mさん** 夫が慣れない家事をやること、私のやり方との違いが気になります。私が家事に集中できるよう、子どもの面倒を見てほしいというのが本音です。

**Fさん** 夫ではなく、子どもたちに「お母さんは家政婦ではない」と言いたい。

## ●男性編

— 家庭での家事や育児の分担について教えてください

**Nさん** 私は独身なので、食事は普段おそろそろを買って帰ります。掃除や片付けはやりたい時にやっています。

**Oさん** 家事は、夫婦でほぼ半分ずつしています。料理は苦手ではないのですが、自分が作ると何を作っても同じ味になってしまうんです。だから、妻がやった方が味も効率も良いと思います。洗濯は分担しています。

**Uさん** 妻が専業主婦だったときは、家事をほとんど任せていました。その後子どもが生まれたことにより、妻は育児負担が増え、私は収入を増やすため仕事量を増やしました。この形を1年ぐらい続けましたが、毎日仕事を終え帰宅してもすでに子どもは寝ているため、子どもと接する時間が少なくなり、なつきにくくなりました。私の父も同じで、いつも仕事で夜が遅く、子どもと接する時間が少なかったたそうなので、家族との対話不足を後悔していると妻経由で聞きました。妻の退職後は、妻が家事育児で疲れている様子を見て、家事育児は半々にすべきと思いました。保育園への送迎も行けるほうが行っています。家事育児は、夫婦のどちらかができなくなっても支障をきたさないように、日頃から分担しています。

**Iさん** 子どもができるまでは、妻が働いていたので分担していましたが、今は妻におまかせ状態です。自分は、その時々で家の空気を読みながら

**Tさん** 60代 専業主婦世帯 子ども4人(社会人 独立)  
**Uさん** 40代 共働き世帯 子ども2人(幼児)  
**Iさん** 30代 専業主婦世帯 子ども2人(幼児)  
**Oさん** 20代 共働き世帯  
**Nさん** 20代 単身世帯

■ 武蔵野市での家事・育児にかかる平均時間 単位：分

性別	家事		育児	
	平日	休日	平日	休日
女性	204	234	220	312
男性	72	102	54	240

(図表出典) 平成30年3月武蔵野市「武蔵野市男女平等に関する意識調査」

それぞれの帰宅に合わせてご飯を出し続け、食堂で働いているようです。夫は仕事で帰りが遅いのに「子どもは夫婦二人で育てるもの」という考えだったので、育児期も実家に頼ることなく、私一人でやってきました。うちは三つ子なので、オムツを買うにも台車が必要で、週末は夫婦で買い出しに行っていました。

子どもたちが小学生になると、私はパートを始め、外の空気に触れることができました。夫から受け取る生活費のうち、やりくりして余った分は自由に使えたので、うつぶんがたまらなかつたように思います。

**Hさん** 分担は半々のはずが、子どもの発熱や予防接種など、ルーティン以外のことはいつも私なのが不満です。そのつど伝えても次回忘れてしまうのでけんかになります。夫は病院に連れていく判断も遅いのです。

**Iさん** 私は保育士なので、長い時間多くの子どもと接しているうちに、

体調の変化を察知できるようになりました。でも男性も女性も子どもと関わる時間が少ないと、ふだんと違う様子に気付くのが遅れてしまうのかもしれない。Hさん なるほど、経験で気付くようになるのですね。夫には、イレギュラーなことでも当事者意識を持ってもらうことが課題です。

——家事育児は女性が担うものという意識はありますか？

**Mさん** 専業主婦の私が家事をやるべきと思ってしまうし、夫の稼いだお金で自分の物は買いつらいです。私自身、「女は家庭」というのに洗脳されてきました。でも、家事の機械化の意味は、省力化だけではないと、本で知りました。家電の登場で男性も子どもも家事をできるようになったことが重要で、欧米では女性の社会進出につながったそうです。

子育てと家事だけだと、自分の成長の機会が奪われているという思いもあり、社会に出たいという気持ちも出てきました。

**Fさん** 私は通販が大好きで、食洗機とかロボット掃除機とか便利そうなものは、いち早く導入してきましたよ。

**Hさん** 夫が入院したとき、家事や育児を外注しようとしたら高額で驚きました。家事が得意でもない私には、家事や育児を周りに頼りながら働いて収入を得る方が合っている、という思いに至りました。

**Cさん** 私も夫も共働き家庭で育ち、どちらも外で働き家事もすることを



やっています。転職したことで、時間の融通がきくようになり、収入も増え、心に余裕もできました。妻の方は大変ですが、彼女のため息が増えないうちは(笑) 甘えさせてもらいます。

**Tさん** 家事は妻がしますが、食事は自分も時々作ります。定年退職前は、仕事が忙しく、休日にか子どもに会えなかつたし、一緒に遊ぶのは好きでしたが、疲れていてできませんでした。家事は、頼まれたらやれることはそれなりにやりました。

——家事育児について不満や不安はありませんか？

**Iさん** 去年、妻がインフルエンザにかかり家事育児が何もまわらなくなりました。妻の母が応援に来てくれてなんとかできましたが、自分の生命線は妻だつくつく感じました。

**Oさん** 今は、お互い満足しています。転職前の職場は、とてもシビアで仕事が夜遅くまでありました。その時は、無理して仕事と家事を両立するのではなく、できるほうができることをやっています。家の片付けも満足ではなかつたし、食事も外から買ってきたりしましたが、それでもお互いにしようがないと思い、不満はありませんでした。

**Uさん** 私は妻の産後に肺の手術をしました。3カ月経つても痛かつたし、今でもひっぱられるような痛みを感じています。妊娠・出産は病気でありませんが、それと同じように大変だと思えます。出産の際の肉体的・



精神的な負担を考えると、なるべく女性には産後1カ月くらい動かさないであげたいと思います。

**Nさん** 今は自分のルールのみの生活ですが、将来、家庭のルールブックをどう作っていくのか、今はいい相手のことを考えると少し気が重く、不安があります。職場の制度では、育児は男女とも取れるようになっていきます。昨年、男性が育児をとっていました。ですが、育児を取得する男性のロールモデルがもっと身近にあるといいですね。

**Uさん** 最近、家事育児は女性がすることだといった考えは変わってきていますね。夫婦で一緒にすることにメリットがあると思いますし、男性が子どもと接する時間は長い方がよいとも思います。ただ、男性は、家事育児を自分のこととして考える自覚が足りないのかもしれないね。



当たり前に感じていました。専業主婦になつたら自由にお金が使えないのではという思いもあり、仕事は続けていくつもりです。ただ、子どもができたとき、今の生活にプラスして育児ができるのか不安もあります。

**Iさん** 一人ひとりが選択し、得意分野をやっているとよいと思います。

——家事育児についての問題を改善するには？

**Fさん** 子どもたちに家事をさせておけばよかつたと反省しています。幼い頃は、手伝わせるより私がやる方が早かつたですし、「三つ子だけど普通に育てたい」と手をかけ過ぎてしまったのかもありません。

**Hさん** 第三者の意見に触れることです。私も家事は女性が担うものと思ひ込んできましたが、60代のワーキングマザーから、レトルト食品でも子どもは育つし、少しくらい部屋が埃っぽくても大丈夫と聞き、考えが変わりました。夫もネットでいろいろな意見に触れて外から見た自分に気付いたようです。

公的サービスとしては、専業主婦でも0歳の子を預けやすくしてほしいです。ベビーシッターは高額で、保育園の一時保育は予約が取れません。武蔵野市は病児保育の料金が近隣市区より高いと思うので改善してほしいです。仕事に復帰した頃、子どもの体調不良で2週間も休むことになり、退職も考えましたが、取引先のワーキングマザーの方が「ここで辞めたら後悔する」と言ってくださり、今があります。

**Iさん** 保育士の立場から子どもの視点で言うと、具合の悪い子はおうちの人がそばにいてあげてほしいです。子どもが熱ならお父さんやお母さんは早く帰りなさい、という職場環境や社会になつてほしいです。

一方で、子どもができたら保育士として担任を続けられないという現状もあり、先輩の保育士が出産で退職することも増えてきました。

**Mさん** 我が家では、物をわかりやすくしまつたら、誰でも片付けられるようになり、タオルのサイズを小さくしたら洗濯物が減りました。工夫次第で手間を省けます。この座談会前に初めて夫と家事について話し合い、家事は誰でもできるものという話もできました。

私の母も専業主婦でしたが、近所の人と子どもを預け合うなどしていたから大変ではなかつたと。私も友人と子どもを預け合うことを始めています。

**Cさん** 夫と暮らし始めたとき、小さなことでも気になつたらお互い言うとうと決めました。どちらかが疲れている様子だつたら、ふだん相手がやっていることを代わりにやるなどしています。

**Iさん** イクメンという言葉も、家事育児を男性が「手伝う」という風潮もおかしいのでは？

私のまわりの男性は、週に何回かは食事を作るとか、家事の時間がなければ相手をねぎらうとか、「手伝う」ではなく「ともに」というのが当たり前になつてきているように思います。

【アシリテーター 小西美穂子／取材 文 藤田和香子】

——家事育児の仕方について夫婦間で疑問や問題はありますか？

**Uさん** 洗濯物のたたみ方など、いろいろな違いはありますが、お互い考えて行動すればよいのじゃないかと思っています。

**Oさん** わが家ではシャツのたたみ方が違います。お互い遠慮なく言うことになつていますが、結局あからさまには言えないんですね…。

もつと話し合いが大切かな。

**Iさん** 食器を洗うにしても、私はただ洗うという目的です。私ですが、妻は洗った後のしまふ場所なども考えながら洗っているんですね。

**Nさん** 私の職場や同世代の中で、家事育児は女性がやるべきと言う人たちがいます。男性だけでなく女性の中にも女性がやるべきと言う人もいます。でも今は多様なライフスタイルがあり、そうした「あるべき論」を議論する時代ではなくなつてきたのだと思います。

**Tさん** わが家では、私が働き、妻が家事育児をするということで、夫婦とも納得しています。だから、家事育児をすることのプレッシャーはなかつたと思います。今は時代が変わり、当然のことですが家庭によつていろいろなパターンがあります。世間はどうかであれ、家庭内で話し合つて、こうだと決めれば、それで良いと思います。

——家事育児はどうあれば良いと思いますか？

**Nさん** 家庭内の家事育児負担は、完

全に半々にはできないと思います。苦勞もありますが、良いことや楽しいことも多いのではないのでしょうか。本当はもつとそつちが世の中にオープンになれば、みんなが幸せになれると思います。さまざまな家事育児のロールモデルを社会で共有していく必要性を感じています。

**Uさん** 家事育児は大変ですが、楽しいこともいっぱいあります。特に、子どもがいればもつと楽しい。子どもが遊べる場所にもいろいろ行けます。女性が仕事、男性が家庭でもいいのです。いかに夫婦で話ができるかが問題なので、他の家庭とは違つていいのですよ。

**Iさん** 家事育児はなくならないので、前提として考えることが大事だと思います。

**Tさん** 家事育児は、夫婦の考えが近ければよいのではないですか。育児については、地域や公的なものも含め親が安心して預けられるところが必要ですね。

**Uさん** 家庭内の問題ではないのですが、保育園などについては、足りない、高い、募集時期の設定が重なつていて申し込み時期が希望者に合わない。また、そうしたことがわかりやすく告知されていないと思います。市や国に財源があるならもつと子育て支援をしてほしい。会社の制度や雇用保険、育休制度ももつと充実させ、取りやすい環境になるといいですね。

【アシリテーター 小西美穂子／取材 文 大久保力】

市役所をはじめ市政センターや図書館などの施設で、相談カードを設置しています。ひとりで悩まずに、まずはお気軽にご相談ください。

## 活動レポート

### どうなってるの？思春期男子のココロとカラダ ～思春期の男の子を育てるお母さんへ～

日時>平成 30 年 8 月 4 日(土) 14:00～15:30

会場>武蔵野プレイス フォーラム

講師>大田静香さん(武蔵野市助産師会会長)

親子として分かるようでも、異性であるが故に分らない部分も多い母と息子の微妙な関係。そっとしておいた方がいいと思いつつもわが子の事が気になるお母さんの気持ちが少しでも楽に



なるよう、多くの思春期男子と接している講師に語っていただきました。「具体的で参考になった」「話に引き込まれあつという間だった」など大好評でした。

### 人生 100 年時代。女性のためのマネーとライフのプラン

日時>平成 30 年 9 月 30 日(日) 14:00～16:00

会場>男女平等推進センター会議室

講師>中島智美さん(ファイナンシャル・プランナー)

目先のことでなく、より自分らしく充実した人生を送るためのライフプランの立て方について、知っているようで実は知らない年金や相続の話も含め、女性の目線でじっくり考えました。圧巻は講師

ご自身のライフヒストリー。何かと不安の多いこの時代、何歳になっても一歩ずつ前に進むその生き方は、自立して楽しく生きていくためのヒントにあふれていました。



### 児童虐待から考える “家族幻想” が追いつめるもの

日時>平成 30 年 10 月 20 日(土) 14:00～16:00

会場>男女平等推進センター会議室

講師>杉山春さん(ルポライター)

定員を上回る申し込みで、このテーマへの強い関心が感じられた講座。長年の取材・執筆経験に裏打ちされた杉山さんのお話は、メディアの報道には表れない児童虐待事件の根底や、現代社会と



それに翻弄される家族への深い洞察に溢れていました。講座後のアンケートには「虐待当事者は特別ではない」「だれ一人関係のないテーマではない」という感想が多くみられました。

そのほかにも、以下の講座を開催しました。

- シングルマザー座談会 vol.1
- 源氏物語を読む～物語を流れる主旋律「紫のゆかり」とは～
- 子育てフェスティバル 2018 ミニ講座～ちゃんと教えてあげたい、正しいトイレの仕方とプライベートパーツの洗い方～
- 知っておきたい法律知識～離婚調停の ABC

## 相談窓口のご案内

相談無料 秘密厳守

### ◆女性総合相談

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】 面接・電話による相談  
【相談時間】 (1回 50 分/予約制)

第 1 土曜日	①13:00～ ②14:00～ ③15:00～
第 2 金曜日	①18:00～ ②19:00～ ③20:00～
第 4 火曜日	① 9:00～ ②10:00～ ③11:00～

### ◆女性法律相談

離婚・扶養(養育)・相続などの法律的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】 面接による相談  
【相談時間】 (1回 30 分/予約制)

第 1 土曜日	①10:00～ ②10:30～ ③11:00～ ④11:30～
---------	---------------------------------

【申込み方法】 ヒューマンあい窓口または、電話にて予約を受け付けます。  
【予約電話番号】 0422-37-3410 (木曜・年末年始を除く午前 9 時～午後 10 時)

## BOOKS

男女平等推進センターの蔵書から 貸し出しています!

### 「北欧に学ぶ小さなフェミニストの本」

サッサ・ブルーグリーン 作/ 榎谷玲子 訳  
男女平等の先進国、北欧スウェーデンの児童書。10 歳の女の子エッパと、エッパのおばあちゃんや友達との会話を通し、女性が権利を勝ち取った歴史や男女平等とはどういうことか、わかりやすい言葉で書かれている。性別・年齢に関わらず一人ひとりがありのままに、自分らしく生きることを考えるきっかけになる 1 冊。  
[文 若林優香]



## 武蔵野市立男女平等推進センター ヒューマンあいご利用案内

〒180-0022 武蔵野市境 2-3-7 市民会館 1 階

電話：0422-37-3410 FAX：0422-38-6239

開館時間：午前 9 時～午後 10 時(木曜・年末年始 休館)

Eメール：danjo@city.musashino.lg.jp



『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点＝「まなこ」で見たい！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

団体活動補助金事業を紹介します

大人のための絵本講座@むさしの  
絵本で考えるジェンダーの世界

日時：10月21日(日) 13:30～15:30  
会場：男女平等推進センター会議室  
講師：廣瀬美由紀さん(とらねこ文庫代表)  
参加者：23名  
主催：むさしのジェンダー問題を考える会、生活クラブグループ創  
共催：むさしの男女平等推進市民協議会

「男の子なら良かった」と言われて育った自分の経験がこの活動を始めた原点、との話で始まったこの講座。黒色の大好きな女の子、闘わない男の子とそれを認める母親、自然に家事をするお父さん、実話をもとにしたパパペンギン二羽の子育て、家事は家族で分担し自動車修理するお母さんなど、ジェンダー視点で厳選した40冊以上の絵本を題材に、男女の性差ではなく個性差を大切に、固定観念や無意識の偏見をなくし自由に生きることが大事、というメッセージを参加者全員で共有することができた、充実した2時間でした。



7月11日(水) 男女平等推進センター会議室にて

みなさん楽しんで地域活動をされているのがキーワードだと思った。地域活動を始めたが、どうすればよいかわからない人へのアドバイスがあったが、そもそも興味がない人を巻き込むにはどうすればよいか。災害時には地域のつながりが必要だが、ほどよい距離感でつながるにはどのようにすればよいかと考えさせられた。

地域のイベントや集まりなどは、どこから情報を得られるかわからない。平日は職場と家との往復のみになりがちなので、休日に参加できるものを知りたい。

ある障がいの方にとって良かれと思ってしたこと別の障がいを持つ方には危ないこともあるのが分かってよかった。情報として知っているだけでも、困っている人を見かけたときに適切に声をかけられると思う。「まなこ」を通して、そういう情報が広まるとよい。

その他、今後取り上げてほしいテーマなどについて活発な意見をいただきました。

平成30年度「まなこ」第2回サポーター会議  
103号「地域活動を考える」を読んで

地域活動のことをあまり知らなかったが、これを読んで、やってみようと思った。どこで見つけられるのか、地域ごとの一覧などがあればよかった。

ペピーカーを押し続けていると、車道と歩道の段差が気になっていたが、車いすのために段差をなくしたことが、視覚障がい者にとっては歩道と車道を区別できず命に関わるためちょうどよい高さの段差ができたというのを読み、そういう意味があると知れてよかった。

地域活動という高齢者が参加するイメージがあったが、学生など若い世代も活動しているのがわかった。



『まなこ』サポーターの200字コラム  
家事労働について思うこと

家事労働にも給料ができればいいのにな

江波戸美樹子 ● 中町

我が家では、家事育児は主に私が担当しています。たまに夫が手伝ってくれるのですが、いつも余計なひと言を言ってしまう。買い物で余計な物を買ってきたとか、お風呂掃除が雑だとか。それくらい言ってしまうのは普通かなと思っていたのですが、嫌な気持ちにさせていたかもしれません。なので、これからは率先して家事もやってみようように、けなしたりせず、いい所を見つけて褒めてあげたいです。でもやっぱり文句を言ってしまうんだろうな...とまだまだ葛藤中です。

他の誰かの「家事労働」の上

小山奈保子 ● 吉祥寺北町

我が母はよく働く。朝4時台には起床して家族の弁当をつくり、ひと通りの家事を終えたら6時台には仕事へ出発。帰宅も決して早くはない。そんな母を見ると「家事労働」とは金銭的報酬がある「労働」ではないが、「家事労働」なくして本人や家族の「労働」すらままならないのではないだろうかと思う。自分が働くことができるのも「家事労働」を担ってくれる母あってこそ。金銭的報酬に代わる...とは思えないが、感謝を述べなければ。

うんちがうんちでまなこ

待鳥葉月 ● 関前

4歳の息子に「うんちはどうして自分のこと自分でできないの?」とこっそり聞かれた。我が家では家事も育児も夫婦でやる。子どもたちも自分の身の回りのことは、できる限り自分でやる。そんな風景が当たり前の息子は、じいじの身の回りの世話を、ばあばがやる祖父母宅の光景を不思議に感じたようだ。私はそんな息子の姿に新しい未来を見た気がした。祖父と孫が並んで家事をする。そんな風景も当たり前にある未来を。

Editors' Notes 編集 \* 後記

男性座談会出席者の皆さんが、家事育児について家庭内で積極的に取り組んでいるところ、そして、夫婦でよく話し合っていること、その考えを持ってもらえたことがうれしかった。(大久保力)

以前特集した「ワーク・ライフ・バランス」。家事は「ライフ」とらえて取材したかも。両方いいや、すべての土台なのが家事という認識が広まったら、違う世の中になる予感。(小西美穂子)

夫はさりげなく家事を手伝える人。それに対し、息子は言えは手伝う人。将来はパートナーとして話し合うようにと言いたくなりました。(島崎理恵)

実家ではロボット掃除機がよく働き、かわいがられている。高齢の両親にとって、掃除よりも好きなことに時間を使うことができ、賢い選択だと心から思う。(藤田和香子)

家事は「命の再生産」——家事って、こんなにも深い意味を持っているなんて! 竹信先生のお話のひとつひとつが身に染みまします。(矢後麻美)

家事と外での仕事を比べたとき、私自身も自分がやっている家事を軽視していたように思います。竹信先生の「家事は命を支えること」という言葉にハッとさせられました。(若林優香)

\* STAFF \*

サポーター	井原 愛美	江波戸 美樹子	小山 奈保子	星田 安津子
	待鳥 葉月	三牧 良子		
取材・編集	大久保 力	小西 美穂子	島崎 理恵	藤田 和香子
	若林 優香	武蔵野市男女平等推進センター担当職員		矢後 麻美
編集協力	栗原 毅			
表紙デザイン	ふじわりりわ			
レイアウト	上田 ジュンコ			
印刷	シンソー印刷株式会社			

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなど市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センター「ヒューマンあい」まで。

\*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

◎綴じ込み返信はがきで、ご意見やご感想をお寄せください。次号は2019年3月発行予定です。